

# 東京都週報

38週(9月18日～9月24日)

発生動向総覧(東京都)・調査票通信  
全数届出患者数一覧表  
定点報告疾患集計(男女別)  
年齢階級別累計表・保健所別累計表  
感染症発生動向調査年次比較折れ線グラフ

事務局 東京都立衛生研究所疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

E-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp



## 発生動向総覧 (東京都)

38週分

## (全数情報)

コレラ1件は、国内での感染が推定されているO1エルトル小川型である。75歳の女性で、最近1ヶ月以内の海外渡航歴はない。なお、35週に他県にて国内発生が1件報告されている。細菌性赤痢9件は、いずれも国外発生で菌型はソネである。推定感染地域は、中国2件、インドネシア2件、インドネシア・シンガポール1件、シンガポール1件、東南アジア1件、アジアの2カ国以上1件、モロッコ1件である。腸チフス1件は、インドでの感染が推定されている。腸管出血性大腸菌感染症13件は、O157VT2が5件(うち有症状1件)、O157VT1+VT2が5件(有症状4件)、O111VT1が1件(有症状1件)、O26VT1+VT2が1件(有症状1件)、O145VT1が1件(有症状1件)である。溶血性尿毒症症候群の報告はない。急性ウイルス性肝炎3件は、B型2件、サイトメガロウイルスによるもの1件である。いずれも国内での感染が推定されているが感染経路不明である。ジアルジア症1件は、台湾での経口感染が推定されている。デング熱1件は、インドネシアでの感染が推定されている。

過去に腸管出血性大腸菌感染症での手術例が報告されている。腸管出血性大腸菌感染症は、高齢者では虫垂炎、薬剤性腸炎や虚血性腸炎、小児では虫垂炎、腸重積と時に鑑別が難しい。手術により予後が悪化することがあるので、鑑別診断が重要である。腸管出血性大腸菌感染症では発熱が比較的少なく、腹部超音波で結腸壁の著しい肥厚を認めることが多い。

(推定される感染地域は、医師の届出によるものです。)

## (定点情報)

手足口病、突発性発疹、流行性角結膜炎の報告が先週に引き続き横ばいもしくは増加している。手足口病には引き続き注意が必要である。脳脊髄炎、無菌性髄膜炎、不明発疹、上気道炎、口唇水泡などの検体からエンテロウイルスの遺伝子が十数件(一部はB群コクサッキー-ウイルスに亜型が決定)検出されており、今後も警戒が必要である。

## (病原体情報)

・発熱、発疹、リンパ節腫脹を呈した1歳男児の発病後1ヶ月目の咽頭ぬぐい液からコクサッキー-ウイルスB5型が分離され、発病から2ヶ月以上たった現在でも発熱、発疹、上気道炎、リンパ節腫脹を繰り返している。

・手足口病の9ヶ月児の咽頭ぬぐい液、及び播種性血管内凝固症候群の新生児の便よりコクサッキー-ウイルスB3型が分離された。

・とびひの患者の水疱液から表皮剥奪毒素を産成するコアグラ-ゼV型のMSSAが検出された。

## (その他の情報)

発疹系疾患と髄膜炎の検体搬入が多い。

## 調査票通信

各保健所から集められたコメントを掲載

## 品川区

百日咳、風疹とも母子例です。

## 世田谷区

手足口病7歳児と3ヶ月児は兄弟感染です。

## 町田市

手足口病が再び小流行している。

## 調布市

近くのT幼稚園で手足口病、S幼稚園で高熱を伴う夏かぜ様疾患、T保育園で伝染性紅斑等流行がみられる。

## 武蔵村山市

保育園・小学校で伝染性紅斑が流行中です。

## 全数届出患者数一覧表 平成12年38週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		35週	36週	37週	38週	38週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マ-ルブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	コレラ				1	7
	細菌性赤痢	5	2	3	9	27
	ジフテリア					
	腸チフス				1	4
	パラチフス		1	1		1
三類	腸管出血性大腸菌感染症	13	14	18	13	153
四類 (全数届出)	アメ-バ赤痢	3	3			4
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)		1	2	3	23
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	回帰熱					
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					
	後天性免疫不全症候群	7	8		7	8
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症	1			1	1
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病					1
	デング熱			1	1	
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					2
	乳児ポツリヌス症					
	梅毒	3	1	2	2	4
	破傷風					1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2				1
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					
	ブルセラ症					
	発疹チフス					
マラリア	2	1	1		2	
ライム病						
レジオネラ症					1	

東京都分の集計は、医師からの追加届出により増加することがあります(9/29集計)

## 定点報告疾患集計（男女別）

疾患名	性	平成12年 週				累計
		35	36	37	38	
不明発疹症	男	6	6	9	4	25
	女	5	4	10	6	25
MCLS	男	1	2	0	1	4
	女	0	0	1	0	1
インフルエンザ	男	0	0	0	2	2
	女	0	0	1	2	3
咽頭結膜熱	男	8	6	5	10	29
	女	7	9	7	1	24
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	男	11	25	16	11	63
	女	9	16	13	18	56
感染性胃腸炎	男	128	150	118	127	523
	女	94	138	106	100	438
水痘	男	28	25	26	22	101
	女	24	22	17	15	78
手足口病	男	95	109	100	116	420
	女	82	101	90	110	383
伝染性紅斑	男	8	13	6	7	34
	女	15	13	14	11	53
突発性発疹	男	52	58	46	52	208
	女	41	46	46	37	170
百日咳	男	1	0	0	2	3
	女	1	0	2	3	6
風疹	男	0	0	1	2	3
	女	4	0	3	3	10
ヘルパンギーナ	男	59	43	30	28	160
	女	66	41	26	28	161
麻疹(成人以外)	男	6	3	7	2	18
	女	5	5	5	2	17
流行性耳下腺炎	男	44	46	51	40	181
	女	37	30	34	30	131
急性出血性結膜炎	男	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	男	8	11	14	19	52
	女	14	12	12	16	54

「累計」覧は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです

年齢階級別累計表（平成12年38週）

	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
～6ヶ月						3	2	3	1	13							1
～1歳	4			1		9	2	16		56	2	2	7		1		
1歳		1	1	2		25	7	41	1	18			5		2		
2歳				2		22	4	34	1	2		1	9	1	11		
3歳	2			1	4	20	11	30	1				11		14		1
4歳				3	6	21	2	33	7		1		6		11		
5歳					3	15	3	29	2				7	1	4		2
6歳					5	20	1	11	2				1		11		2
7歳					4	11	2	4	1				3		3		
8歳	2				1	7		7	1		1		1		2		
9歳	1				1	8		4					1		5		1
10～14歳					1	19	1	5	1					1	5		1
15～19歳						6	2	1						1	1		3
20～29歳	1			2	4	41		8			1	2	5				9
30～39歳			1														8
40～49歳																	3
50～59歳			2														2
60～69歳																	2
70～79歳																	
80歳以上																	
合計	10	1	4	11	29	227	37	226	18	89	5	5	56	4	70	0	35
先週比	-9	0	3	-1	0	3	-6	36	-2	-3	3	1	0	-8	-15	-1	9

注：小児科定点把握対照の疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (平成12年 38週)

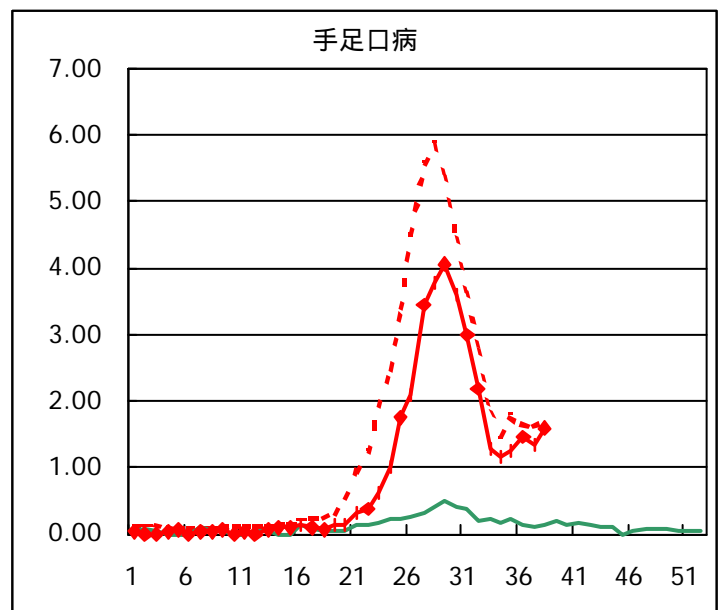
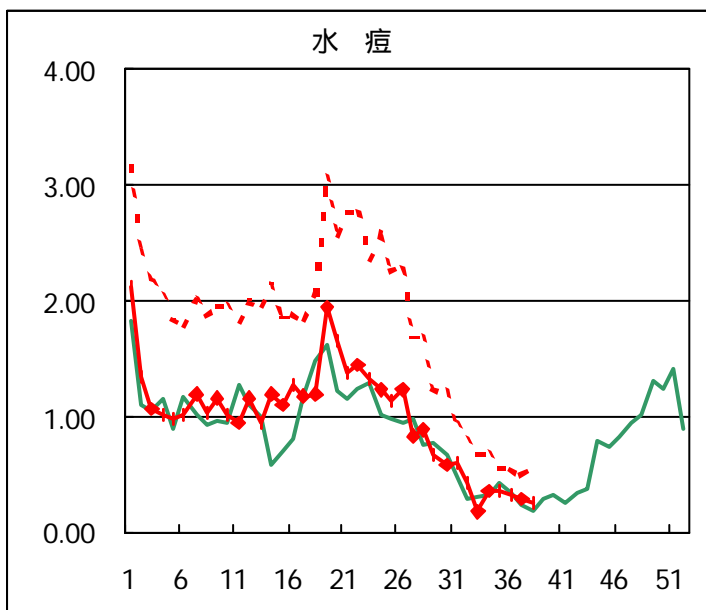
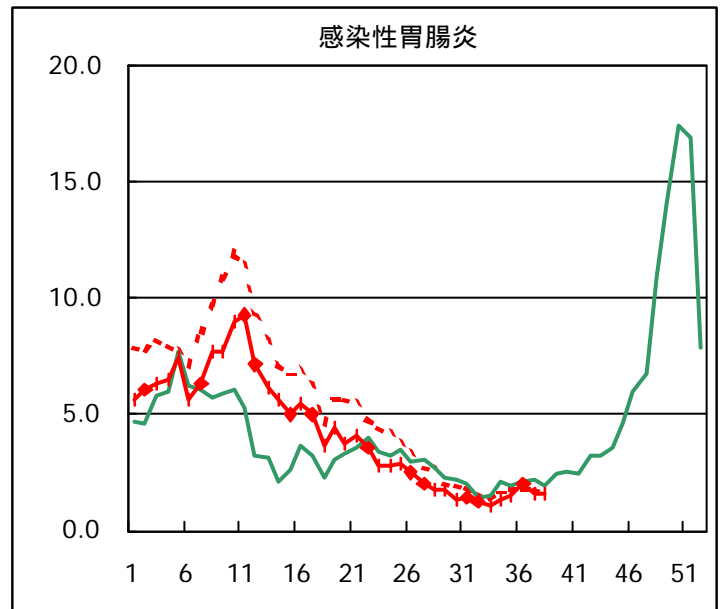
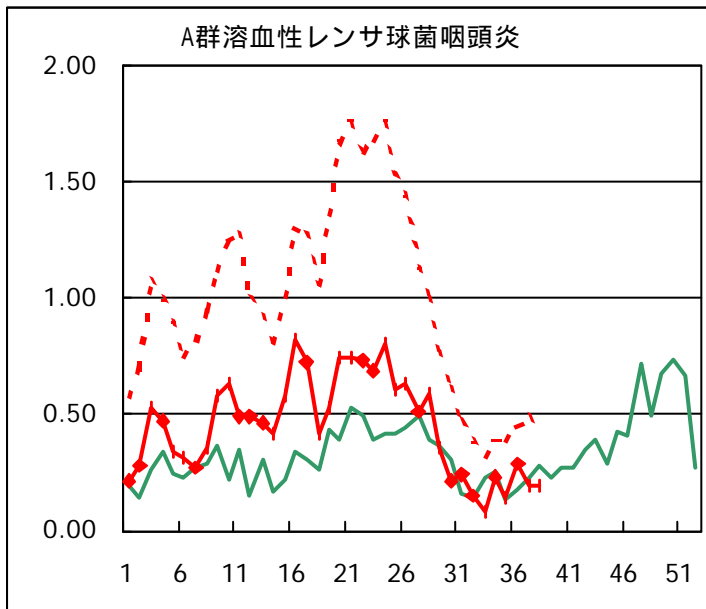
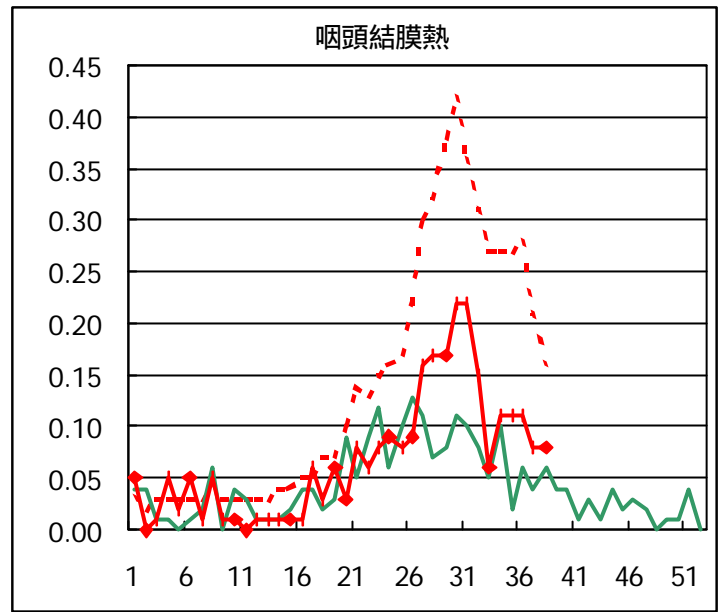
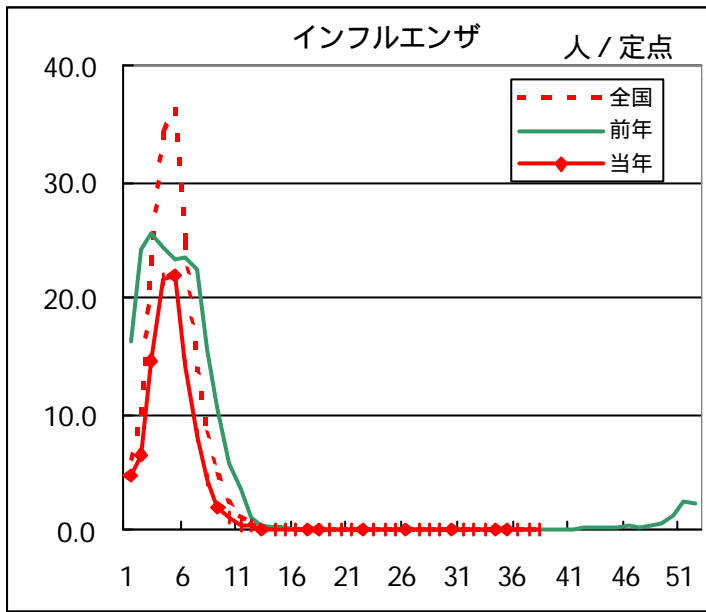
	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	合計
中央				2		3		4		1								10
日本橋																		0
文京						11		5		1					1		3	21
本郷																		0
向島															2			2
本所										1								1
江東区	1					11		5	1									18
深川						3		8		5							7	23
世田谷	2			1		16	1	5	2	10			5		3			45
渋谷区				1		6		4		1			1		1			14
池袋						1		2		2							2	7
長崎						2	2	3		1								8
荒川				1	1			6	1	1		1	4		5		2	22
足立				1	1	8		8	1	8			4		2			33
千住																		0
葛飾				1	3	8		9	1	1			3		5			31
江戸川	1					11	1	2		3			1					19
小岩						1												1
台東					2	5	2	7		4			2		3			25
目黒区						2	2	5		1								10
大田区	1				1	9	1	18	1	7		1	1		4			44
杉並						9		4	1						2			16
北区					2	1		34		4			5	1	6			53
板橋区			4					11		2								17
みなと	1				3		1	3	1	3	1				1		2	16
中野区						21	1	4		6			2					34
新宿区	3				3	2	1	7		4			2		5		12	39
品川区				1		5		4		3	2	2	5		2			24
千代田							5	13	4		1				1			24
練馬区	1				2		5	6		3					6			23

保健所別累計表 (平成12年 38週)

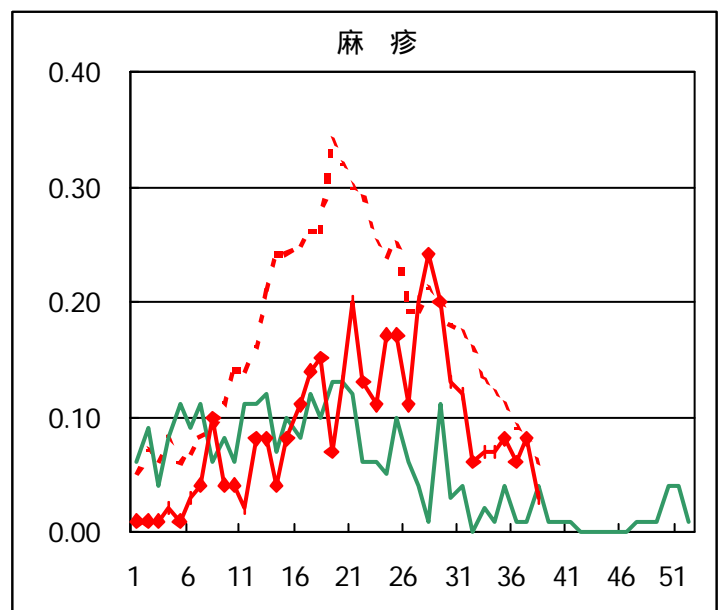
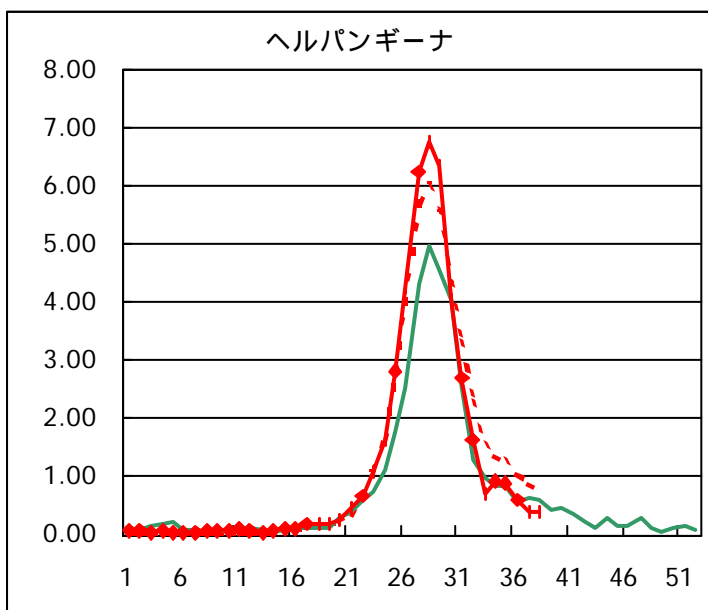
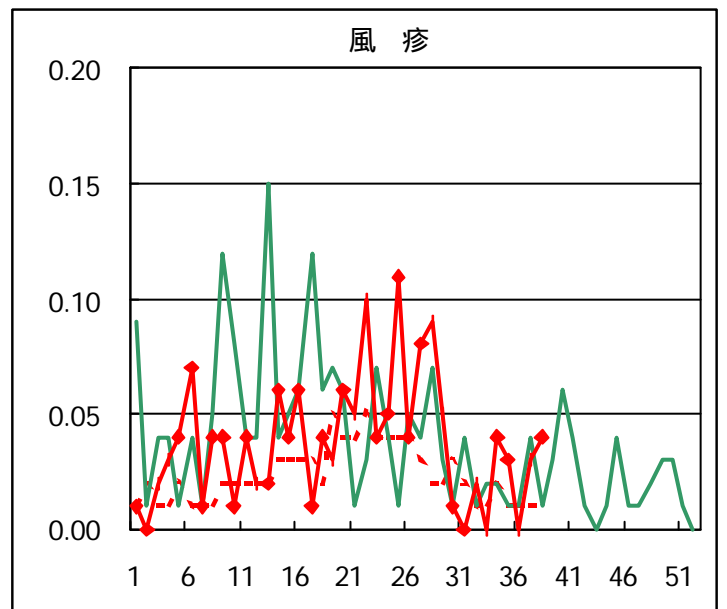
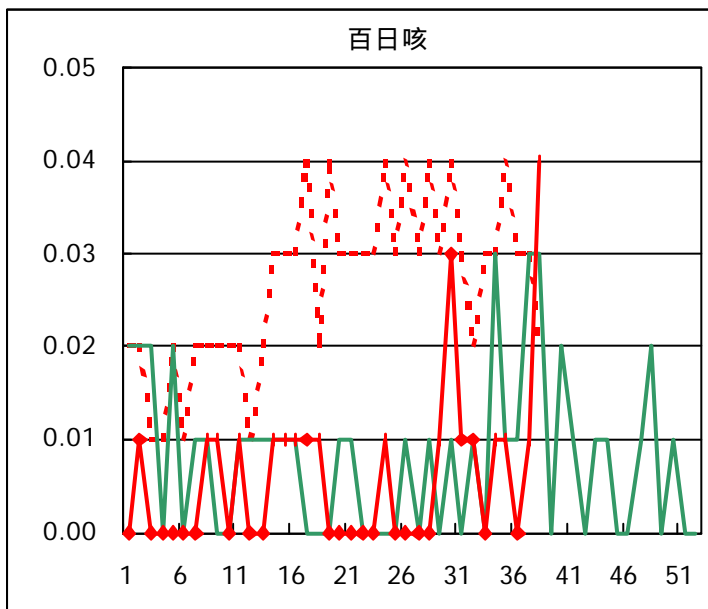
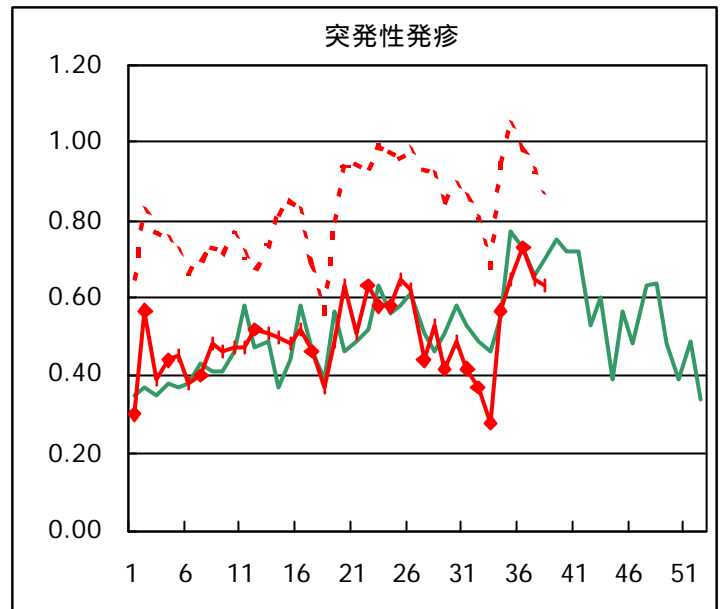
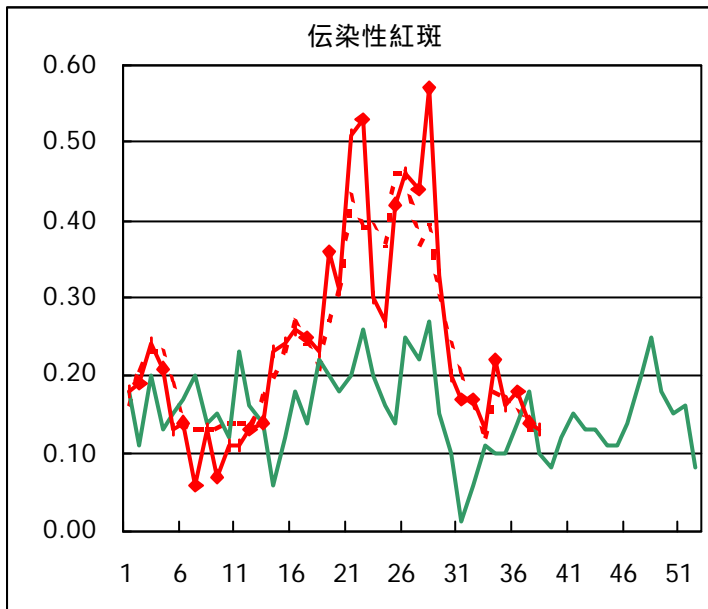
	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	合計
八王子		1					2			1		1						5
町田					2	19	2	8					8		3			42
島しょ										1								1
多摩川					1	4	5	4	1	4			1					20
秋川					2	13	4			3					4			26
南多摩				1	1	24	1	13		2			7		3			52
多摩立川					1	6	1	4		2			2	3				19
村山大和						1		2	3						1		6	13
府中小金井					1													1
狛江調布				2	1	6		11	1									21
三鷹武蔵野					1			1					3		5		1	11
多摩小平						8		2		2	1				2			15
多摩東村山					1	11		4		2					3			21

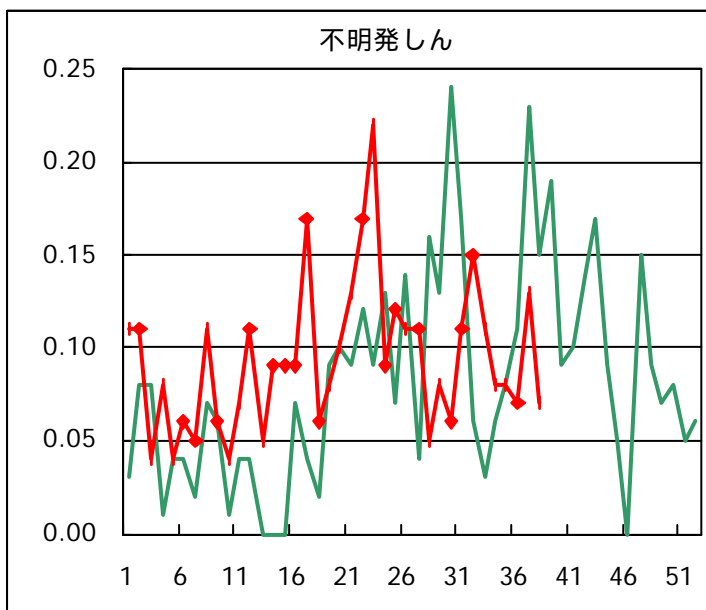
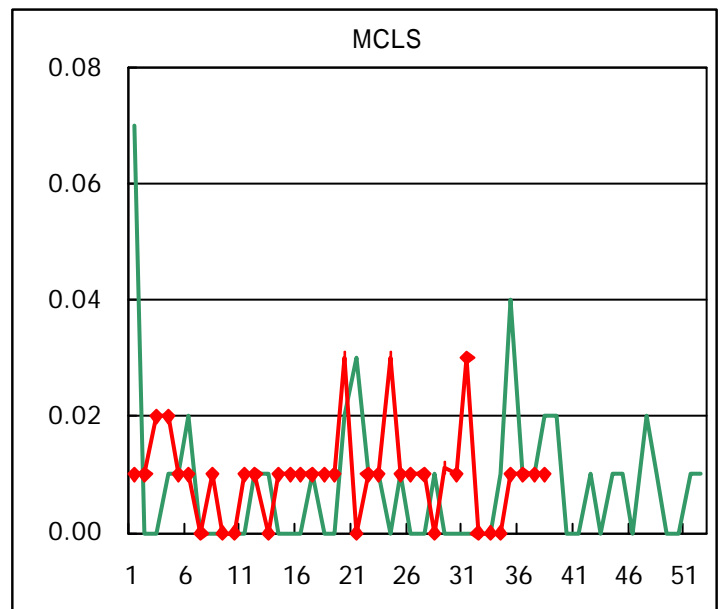
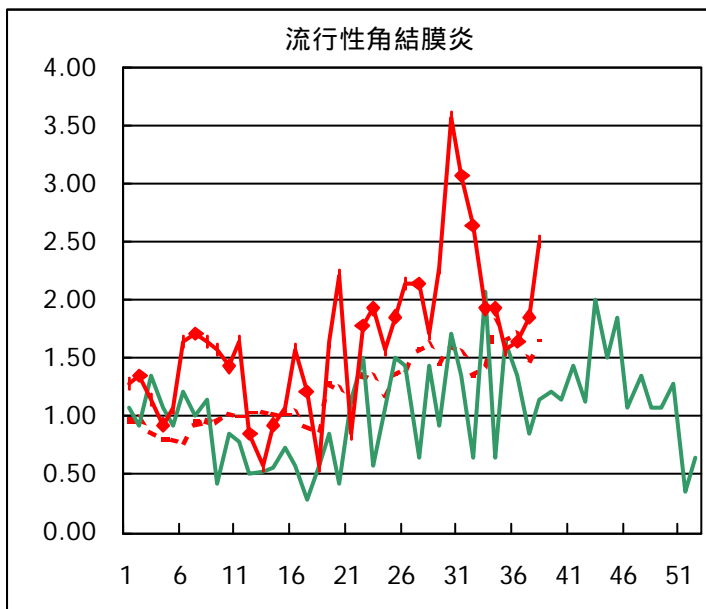
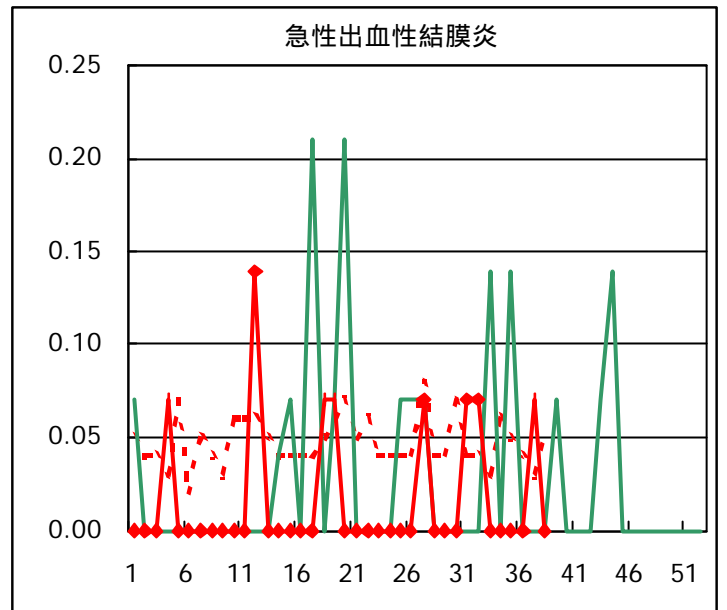
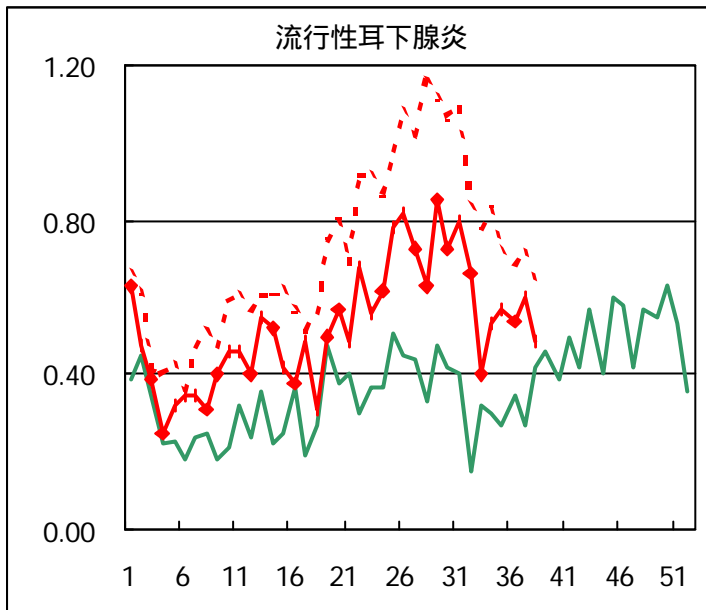
東京都合計	10	1	4	11	29	227	37	226	18	89	5	5	56	4	70	0	35	827
定点当り報告数	0.07	0.01	0.02	0.08	0.20	1.60	0.26	1.59	0.13	0.63	0.04	0.04	0.39	0.03	0.49	0.00	2.50	5.82

# 疾病別グラフ









疾病別の定点医療機関数	
疾 病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
上記を除く疾病	142

## 食中毒の動向

東京都医師会予防検討委員会

平成11年12月28日に「食品衛生法施行規則の一部を改正する省令」が公布された。この改正により、旧伝染病予防法に基づいて扱われてきたコレラ菌、赤痢菌、チフス菌及びパラチフスA菌、更に、原虫や寄生虫による疾病であっても、飲食に起因する健康被害(Foodborne Disease)については、食中毒であることを明確にすることとなった。食中毒病因物質の追加は、平成9年の小型球形ウイルス(SRSV)以来である。

最近の発生動向としては、腸炎ビブリオ、カンピロバクタ -、SRSVによる食中毒が増加している。サルモネラ食中毒も相変わらず多発しており、腸管出血性大腸菌O157検出数も減少してはいない。

平成12年8月31日現在の東京都内の食中毒事件数は、76件で昨年同期の63件に比べて多い。特にSRSVは18件(昨年7件)、カンピロバクタ - は10件(昨年4件)で増加が著しい。また、近年の食品流通の発達等に伴い、広域に渡って販売される食品が多くなり、それらを原因とした食中毒では、患者が広域的・散発的に発生することから、Diffuse outbreak (広域的散発事例)と呼ばれる。イクラ加工品を原因としたO157による事例(平成10年)や乾燥イカ菓子によるサルモネラ食中毒事例(平成11年)等がこれに該当するが、今年もチェーン店を原因施設としてO157による食中毒が数例発生している。Diffuse outbreak を探知・解明するには、迅速で正確な情報と原因菌株の収集・解析が重要である。

例年9～10月も未だ食中毒の発生は多い。今年は、記録的な暑さが続いているので、いっそうの警戒が必要である。

文責：甲斐明美